



## 65歳以上で推奨される肺炎球菌ワクチンに関して

### ① 2種類のワクチン

国が助成してくれるワクチン（23価肺炎球菌ワクチン＝ニューモバックス 8500円半額助成）と国が助成してくれないワクチン（13価肺炎球菌ワクチン＝プレベナー 12000円）があります。

両者とも肺炎球菌の莢膜きょうまくという菌のからだの一部分を狙っている点は同じです。国が助成してくれないワクチン（13価肺炎球菌ワクチン＝プレベナー 12000円）の方が理論上は免疫が高まると言われています。

### ② 判明している効果

2つのワクチンはこれまでの経緯から以下のことがわかっています。

肺炎球菌が血液の中や髄液の中に入って感染を起こすことを減らすこと、ワクチンに含まれている肺炎球菌による肺炎を減らしうることです。しかし（ある意味当然ですが）、ワクチンに含まれていない莢膜をもつ肺炎球菌による感染症を減らすことはできません。また、肺炎球菌が原因で死ぬことを減少させることも今のところ証明されてはいません。

### ③ どちらを先に打つべきか

紹介したワクチンを同時接種することは免疫が高まるのが単独接種した場合より期待できないのでお薦めできません。先に13価肺炎球菌ワクチン（＝プレベナー）を打って半年程度の間隔をあけてから23価肺炎球菌ワクチン（＝ニューモバックス）を打つ方が良いとされます。米国での接種間隔は8週ですので、日本でも接種の間隔を同様にするのは可能と考えます。インフルエンザワクチンとの同時接種に関しては

（抗体上昇の点や副反応の点から）特に問題はありません。

現時点でのワクチン自体の効果は②に示す通りですので、すべての方が2種類のワクチンを接種した方が良いかどうかは考える必要があります。少なくともお金に余裕がある方は2種類のワクチンを接種しても良いかと考えます。

### ④ ある町の国が助成してくれる肺炎球菌ワクチンの接種状況から思うこと

全国の市町村における接種状況は平均すると50%程度といわれていますが、ある町の接種状況は1桁台のようです。ある町は短命県返上（正直このスローガンもいかなものかと考えますが…）を目指すところある県の最北端に位置するようですが、さまざまな文化的・社会的な背景を考えると肺炎球菌ワクチン接種率の低さは納得できることです。接種を奨めるべき私たちや行政の活動不足もあるかもしれませんが、世帯における所得の低さも十分に影響しているかもしれませんが、接種対象者の意識にも問題があると言わざるを得ません。本来ワクチンは自分のためにするものなので、あまり自分の健康のことを考えるのは得意ではないのでしょうか。ただ、それも考え方の一つとして尊重し興味深さを感じるのが一流の家庭医・総合診療医のようですが…私はその段階には達しておりませんので、妥協することなく修練を積もうと思います。

